

ヨーロッパひとり旅。

こんな体験

あなたもいかが？

Part 2

ヒグチ サトシ

脱ツアー旅行！ 個人旅行は未知との遭遇

第二弾：ロンドンのダフ屋

ヨーロッパ旅行中に体験した
個人旅行ならではの話

ヒグピー書房 定価 無料



ロンドンのダフ屋

私は80年代後半から90年代にかけて、ちょうど日本がバブルの絶頂期にあった頃、イギリスに何度か出張する機会があり、その際はロンドンから車で2時間ほどの距離にある、シェークスピアの生誕の地として有名なストラトフォード・アポン・エイボンに宿泊していた。

ストラトフォード・アポン・エイボンの周辺は、英国特有の田舎の情景が今でも残されており、100年以上も前のものと思われる家並みや、丘陵が幾重にも重なる田園風景は、この地方特有の物だ。

仕事で来ているので、平日はレンタカーでホテルと出張先のオフィスの往復だが、その頃まだ若かった私は、週末になるとロンドンが気になり良く通った。

ロンドンに行く目的の1つには、ミュージカル鑑賞があった。

ジャズが好きな私は、もし出張先がニューヨークならば、ライブハウス巡りをしたのだが、ロンドンなら、まだ見た事が無いウエスト・エンドのミュージカルと決めていた。

ミュージカルに関しては、「ちょっと気の利いたレストランでは、BGMにミュージカルの曲が流れている」という、あるイギリス在住の知人の言葉が今でも脳裏に刻まれている。

特に、アンドリュー・ロイド・ウェーバーによる「キャット」「スターライト・エクスプレス」「オペラ座の怪人」等の大ヒット曲が、比較的、一般にも浸透しているようだった。これは、ミュージカルの認知度が日本とは若干異なる事を示している様に思われる。

最初に見たミュージカルは「メトロポリス」だった。

当時話題のミュージカルは「オペラ座の怪人」や「レ・ミゼラブル」だったが、大変な人気のため、これらのチケットは何ヶ月も前に売り切れており、旅行者が当日のチケットをボックス・オフィス（劇場のチケット売り場）から購入するのは不可能だった。

本当はこれら話題作を見たかったのだが、当日でもチケットが手に入るミュージカルということで「メトロポリス」を見たのだった。

これは映画にもなっており、既にストーリーは知っていたので英語が理解できなくても見ているだけで楽しめた。

残念ながら、このミュージカルはあまりヒットせず、直ぐに打ち切られてしまった様だが、私がミュージカル好きになるには十分だった。

その後、日本でもそうであるように、ダフ屋からチケットを買えば、どんな話題のミュージカルでも当日の券が入手出来る事を知った。

もちろん値段は正規プライスの2倍、3倍はしたと記憶しているが、それでも旅行者は事前予約して何ヶ月も待つ事はできない。従ってそれ以降は、もっぱらダフ屋を利用する事になった。

ある時、ダフ屋から「レ・ミゼラブル」のチケットを買った時の事だ。当然、いくらで買うかが交渉になる。

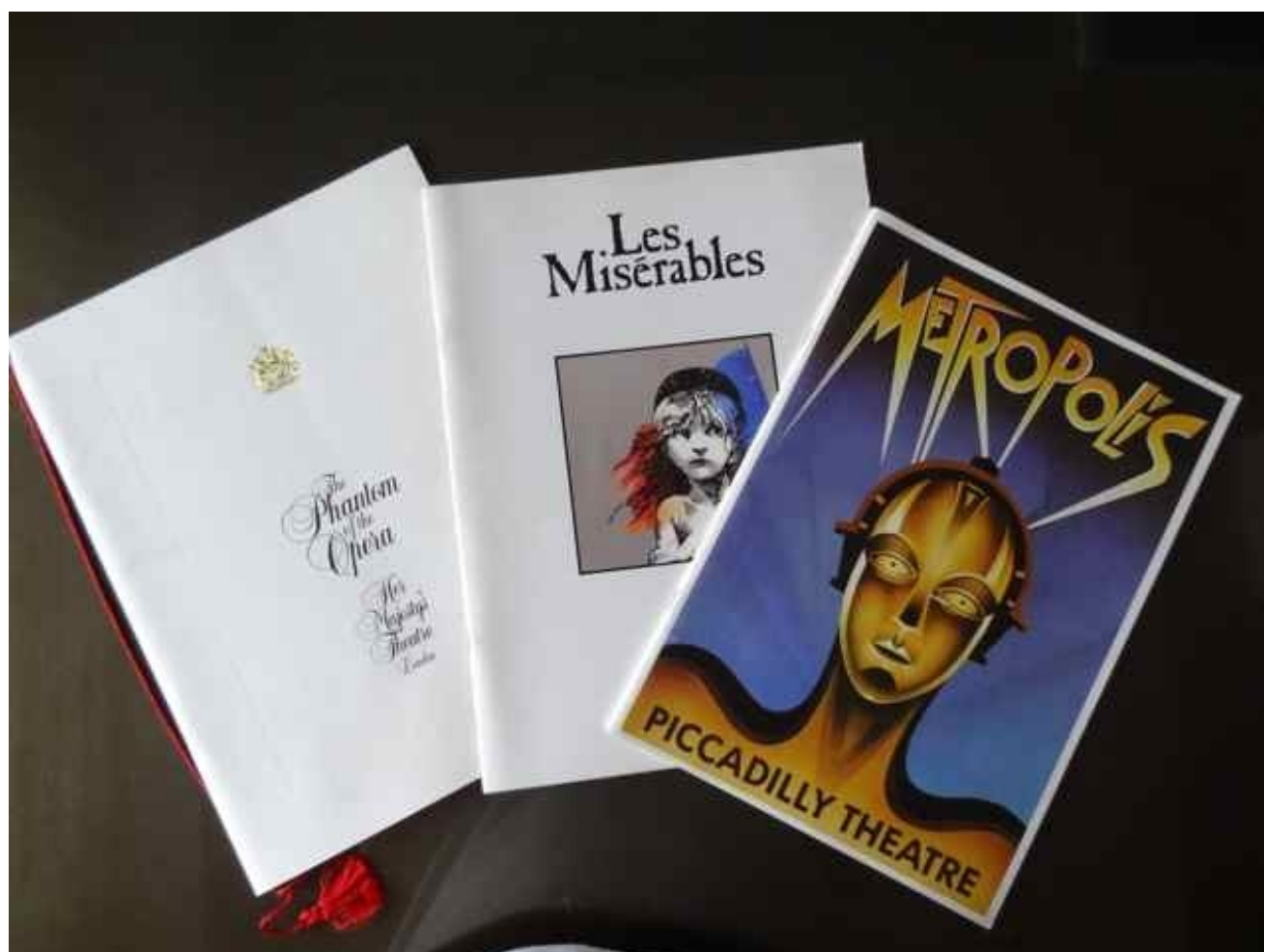
ダフ屋は、持っている何枚かのチケットの中から一枚を取り出し、「この席は良い席だ」と言うので、それにしようと思っただけだったが、相手もなかなか強気で、こちらの思った値段にならない。しかしミュージカルが始まる時間も近づいている。

「その値段だと、持ち合わせが無い」というと、ダフ屋曰く「日本円でも良い」と言う。私はびっくりした。ロンドンの街頭でダフ屋に日本円が通用するとは考えもしなかった。意表をつく成り行きに、私はつい調子に乗って聞いてしまった。

「カードでも支払いはOKか？」

ダフ屋は笑いながら言った。

「冗談言うなよ」



ミュージカルのパンフレット

(左から「オペラ座の怪人」「レ・ミゼラブル」「メトロポリス」)